

語り手 大原寿美子さん(明治40年生まれ)
昭和62年8月23日収録

らんようになる。その家の人が掘り返してみたら、その娘さんは真っ黒になって死んでるけど、

この話は関敬吾氏の昔話分類では、本格昔話の子どもが生まれた夢を見る

また(b)地中で子どもが生まれた夢を見る

昔話として語られている

翌日、諸国遍歴の一人の僧がここを通り、新し

やや子はまるまる太っていた。その幽霊が子どもを育て、子どもが生きとったいうことです。そればかり。

「4・誕生」に「子育て幽霊」として次のように登録されている。1、妊婦が死んだので葬る。

2、(a)幽霊になって毎晩同じ時刻に一文銭を持って飴を買いに来る。

3、墓を掘ると屍が322年、浦富に生まれた。俗名・永沢家光。父は同郡細川村の太郎

岩美の通幻禅師誕生伝説も

解説

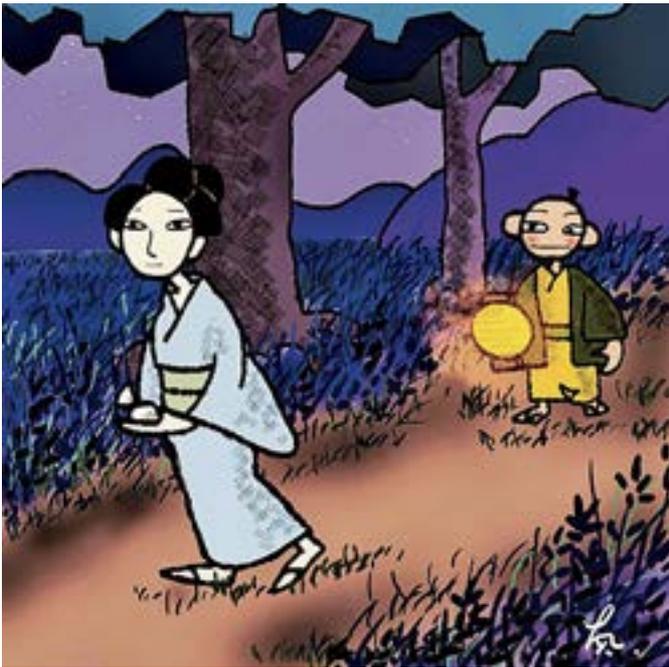
松江市では中原町の大雄寺に関する伝説として小泉八雲が紹介している有名であるが、全国的にも類話は語られている。鳥取県で見れば岩美郡岩美町の曹洞宗、通幻派の祖として名声の高かった通幻禅師(通幻寂霊)誕生にまつわる伝説が残っているが、水飴を買いに来る子にもいろいろと

昔、あるところの娘さんが大きな腹になった。「困ったなあ、飯を食わなければ中の子が死ぬだろう」。両親は何日も娘に「飯を食わせなかつたら、とうとう娘は死んだ。しかたがないので野辺送りをした。

ある飴屋に夜、女が一文銭を持って飴を買いに来る。一定の6文がすんだら金がないので、桐の葉を持って出る。「木の葉がついて出さるわ」いうよつなことで、それが毎日なので番頭さんが後をつけたら、一人娘の死んだ新墓の前へ行くとお

子育て幽霊

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

美町誌』(9233~9244、昭和43年岩美町刊)に詳しい。概略しておく。(元鳥取短期大学教授) (水曜日に掲載)